

学校だより

5月号

# 一中の桜並木

令和8年5月1日

「教育目標」

考える人 思いやりのある人

助け合う人 成しとげる人



連雀学園三鷹市立第一中学校

校長 宮城 洋之

## 挨拶から始まるつながりと成長

副校長 岩瀬 久芳

一中に着任して1か月、生徒の多さや敷地の広さにも驚きましたが、何より衝撃的だったのは、挨拶の声がとても大きく、多くの生徒が自分から声をかけてくれることです。しかも、しっかりこちらに顔を向けて、にっこりと笑顔で。校内を見回っていると廊下の端や体育館の反対側から「こんにちは！」という声が聞こえて、よく見てみると自分に向かって挨拶してくれていたことがわかり、うれしさとともに慌てて挨拶を返すこともあります。

それは決して相手が教員だからということではなく、友達同士でも自然に行われています。登校時には「おはよう」、授業中にプリントを回す時には「ありがとう」の言葉が自然に飛び交います。

「挨拶は心の窓」とよく言われます。私も教員として、挨拶を大切にしてきました。自分が心を開いて挨拶の声をかけることで、生徒との関係づくりの第一歩になると考えているからです。

開け放った窓からは心地よい風が吹き込み、新鮮な空気を取り込むことができる一方で、夏には猛烈な暑さが、冬には肌を刺すような厳しい寒さが容赦なく入り込んできます。心を開くのも同様、気持ちのよい対応ばかりが返ってくるわけではなく、予想もしなかった反応に驚き戸惑い、時には傷つくこともあります。しかし、それこそが外の世界を知る第一歩であり、社会に適応して生きていくために欠かせないものなのだと思います。

一中学生には、そういった人との関係づくりの素地がしっかりと身に付いています。そこにはこれまで見守ってきてくださった地域・保護者の方々、小中学校の教職員の支援があるのだと思います。先日の引き渡し訓練でも、多くの保護者の方が笑顔で挨拶をしてくださいました。あるべき姿を示してくれる大人がいるのはとても幸せなことです。感謝の気持ちを忘れず、地域に元気を与える一中学生であってほしいと思います。

一中学生の皆さん、挨拶運動や小中の交流活動、地域でのボランティア活動などに積極的に参加し、心を開いて多くの人たちと触れ合い、大いに刺激を受けましょう。カギを握るのはもちろん、挨拶です。皆さんが中学校生活の中でどのように成長していくのか、どのような活躍を見せてくれるのか、これから共に過ごす一年間をととても楽しみにしています。

地域・保護者の皆様、私たち教職員も皆様との関わりを大切にしながら、教育活動に邁進してまいります。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。